

和歌山盲学校 令和5年度 第3回学校運営協議会記録

開催日時: 令和6年2月16日(金) 10:00~12:00 和歌山盲学校会議室

出席者: 委員5名、傍聴人(本校職員等)7名

【議題】今年度の本校の取組と今後の本校の目指す姿について

【議題】今年度の本校の取組と今後の本校の目指す姿について

視覚障害理解、理療科啓発を目的に2月に開催した和歌山盲学校展や、地域との連携した取り組みを校長より報告し、理療科の今後や授業づくりについて協議を行った。

理療科の今後について

- マッサージの技術だけではなく、患者とコミュニケーションをとることが必要。
- 企業実習について、社員さんや社長に施術を受けてもらった。現在、県内にはヘルスキーパーの制度を取り入れている企業がない。多くの事業所に本校の理療科を知っていただきたい。実習を行うことで、雇用には至っていないが、「来年度も」と話を頂いている。生徒も、実際に労働されている方、疲れている方を施術する経験は教育的な効果があると考えている。
- 和歌山は中小企業が多く、ヘルスキーパー設置が可能なのかという課題がある。
- 高齢者施設等も現在はサービスで差別化している。そのような施設を就労先にしていくことで、施設としてもPRポイントになっていくのではないかな。
- 技術だけでなく、人間関係形成能力を含めた力を育てていく必要がある。自立活動の視点も学習にとりいれながら、生徒の育成をしていく。外部に出て経験を積むことも大切である。

授業づくりについて

- 小学校では、教科学習でいかに主体的に対話的な学習を進めるかについて、外部講師を招いて研修している。事前の授業略案を確認し、教科の見方・考え方を大切にしている。
- 個人の授業力アップだけではなく、みんなの授業力アップを求めていって欲しい。
- 学べる授業をして欲しい。こどもにわかりやすい授業してもらおうとこどもは伸びた。

その他

- みんなが住みやすい社会にするために、障害があっても当たり前で生活できる社会になってほしい。和歌山県に障害者差別解消条例ができた。合理的配慮の提供や、障害者差別のない社会を目指していきたい。
- こどもが帰るのは地域社会なので、学校の教育は学校完結型とならないように。その視点に沿って、学校運営に活かして欲しい